

非鉄

(4)

非鉄金属

三芳合金工業

銅合金 溶解鑄造炉を更新

製造能力2割増 半導体、航空機 関連向け拡販

銅合金の鑄造品・鍛造品メーカーの三芳合金工業(本社・埼玉県三芳町、社長・萩野源次郎氏)は2018年2月をめぐりに、溶解鑄造炉を1基更新する。処理能力が高い炉に改めることで、全社的な製造能力を2割拡大。半導体や航空機関連での受注増に対応する。更新前の炉では燃料として重油を使っているが、新型炉は電気で加熱する方式。CO₂の排出を大幅に抑えられるほか、消耗品などにかかる維持コストが低減できる。投資金額は約1億1千万円となっている。

半導体関連需要の増路拡大などで、現在同社はフル操業となつて、今後市場のニーズ

に対応するため、約10基ある溶解鑄造炉のうち3番目に大きい設備を更新する。導入する炉の容量は約1トで、従来の約500キログラムの2倍。昇温スピードが速く溶解効率が高いほか、自動点火機能で早朝から無人運用できることなどで1日当たりの鑄造量は2倍以上に

高まる。

CO₂排出量や維持コストの低減に加えて、細かな温度制御が可能で使い勝手が良いことや、出湯工程の自動化で製造現場の負担を減らせることも新型炉のメリット。また同社の製造条件に合わせて改良する予定で、品質の安定性もさらに高まる。

萩野社長は「更新前の溶解鑄造炉は50年以上前に導入したもの。新鋭機に更新することで、安定供給体制を強化する狙いもある」と話している。